

# 水稲現地栽培指導会資料（出穂期）

福島県県北農林事務所伊達農業普及所

## 1 気象経過（アメダス梁川 7/20まで）

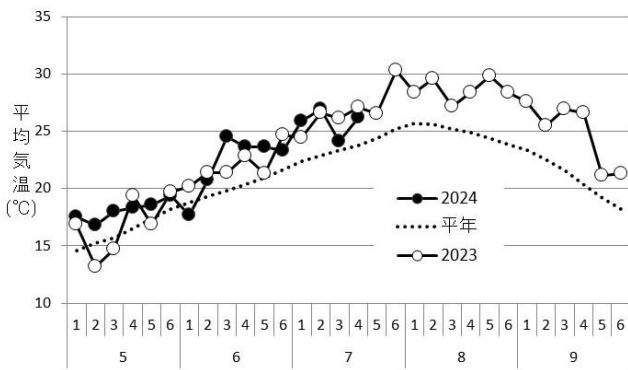


図1 平均気温の推移

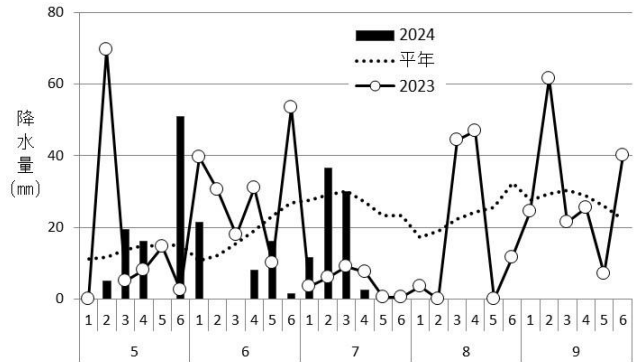


図2 降水量の推移

## 2 東北地方の天候予報（7/20～8/19 1か月予報、仙台管区气象台7/18発表）

- 東北地方は、期間の前半は気温がかなり高く（80%）なる見込み。
- 降水量は平年並～多く（40、40%）、日照時間は平年並～多い（30、40%）。
- 梅雨入りは、東北南部は6/23頃（平年：6/12、昨年：6/9）でした。
- 梅雨明けはまだですが、平年は7/24、昨年は7/22頃でした。

## 3 水稲の生育状況について

○7月の水稲の生育は草丈は平年より長く、茎数は平年よりやや少ない。葉色は平年並み。

品種：コシヒカリ			7月5日					7月15日				
調査地点	年次	田植	草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉数 (枚)	葉色		草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉数 (枚)	葉色	
						カラー スケール	SPAD 502				カラー スケール	SPAD 502
伊達市 梁川町 大関	本年	5/6	63	584	11.1	2.7	30	80	532	12.6	2.7	32
	前年	5/13	67	767	10.2	3.4	37	82	660	11.4	2.2	34
	平年	5/16	56	623	10.0	3.6	38	69	586	11.0	2.8	35
	平年比	-10	113%	94%	+1.1	-0.9	-8	116%	91%	+1.6	-0.1	-3
国見町 塚野目	本年	5/17	59	510		3.3	39	75	461		3.3	37
	前年	5/13	66	491		3.5	38	80	471		3.0	37
	平年	5/15	54	519		3.8	37	67	491		3.1	35
	平年比	+2	109%	98%		-0.5	+2	112%	94%		+0.2	+2

注.伊達市の作付けは平年より10日早いため、草丈は長く、茎数は少なくなっている。

○幼穂形成始期は、「ふくひびき」は7/3頃（昨年7/15）、「天のつぶ」は7/8頃（昨年7/6）、及び「コシヒカリ」は7/13頃（昨年7/16）と予想されます。

○出穂期は幼穂形成始期から24日後頃とされていますが、幼穂形成始期は田植日で異なるので注意して下さい。

○このため、出穂期の予想は止葉が確認されたら、葉耳間長から出穂期を推定(表1)して、施肥と病害虫防除等を適期に実施して下さい。

表1 幼穂長と生育ステージの目安

出穂前 日数 (日)	幼穂の 長さ (cm)	外形 (葉耳桿長)
24	0.15	止葉より下2枚目の葉抽出
20	0.2	
18	0.8~1.5	止葉抽出
12	8.0	葉耳間長 - 10cm
8	15	葉耳間長 0 cm
4	20.5	葉耳間長 + 10cm
0	22	出穂

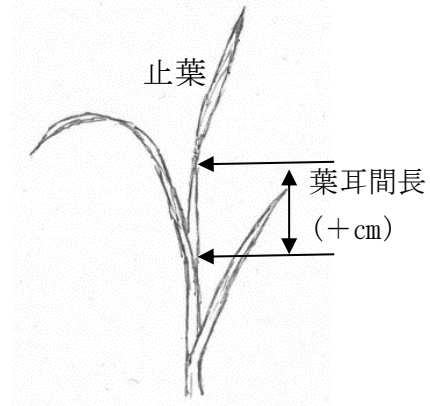
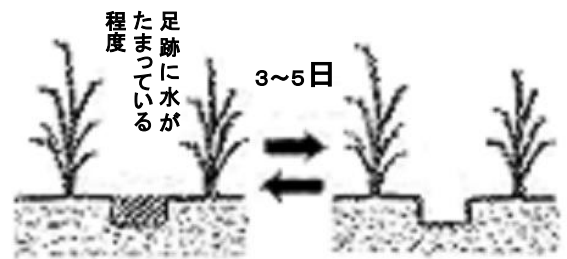


図3 止葉と幼耳間長

## 4 水管理

### (1) 中干し後の水管理

○中干し終了直後は根腐れ発生防止のため、走水により急激な湛水状態にしないようにし、終了後の水管理は、間断かん水を基本とします(図4)。



右と左を繰り返すのが間断かん水

図4 間断かん水のやり方

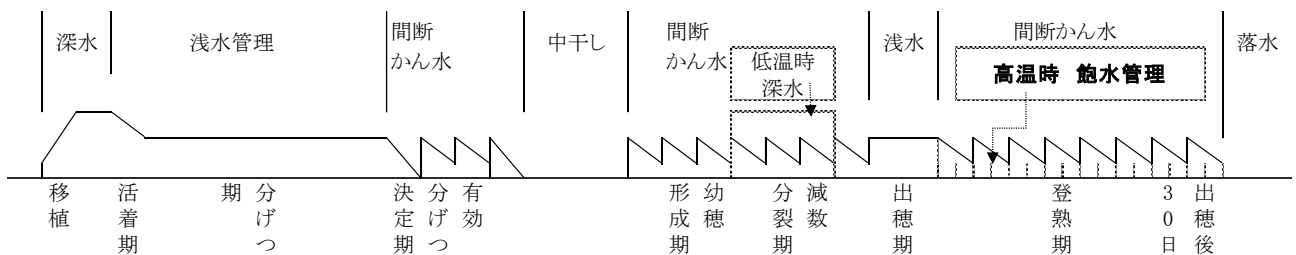


図5 生育ステージと水管理

令和6年度 天つぶ: 7/8頃 天つぶ: 8/1頃予想  
コシ: 7/13頃 コシ: 8/6頃予想

### (2) 低温時の深水管理 (幼穂の保護)

○幼穂形成期 (出穂24日前頃) に低温に遭遇すると耐冷性が低下し、減数分裂期頃 (出穂12日前頃) の低温で障害不稔が増加するため、深水管理を行い、被害軽減に務めましょう。

水深の目安: 幼穂形成期 5 cm、減数分裂期 15~20 cm (幼穂の高さ以上)

## 5 夏季の高温対策

- 令和5年度は、夏季の異常気象(高温)の影響で白未熟粒や胴割、カメムシ害等が発生して米の品質が低下しました。
- 令和6年度の3か月予報は、昨年と同様に高いと予想されています。このため出穂期前後に下記(1、2)の対策を行い、良質米の生産を進めましょう。

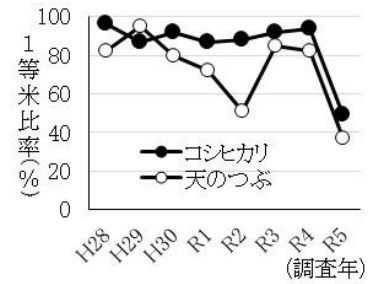


図6 1等米比率(%)

### (1) 出穂前の追肥

- ・品質低下防止のため通常施肥に加え出穂前に追肥を行うと白未熟粒が減少し整粒歩合が高くなります(図4)。
- ・このため、天気予報(2週間、1か月等)で出穂期以降が高温と予想され、出穂期の葉色に著しい低下(葉色低下:SPAD値が32以下)が予想される場合は、**出穂前に追肥を行い品質の維持に努めて下さい。**
- ・なお、SPAD値32は葉色カラスケールで、出穂期に単葉で4.3、群落で3.3程度とされています。

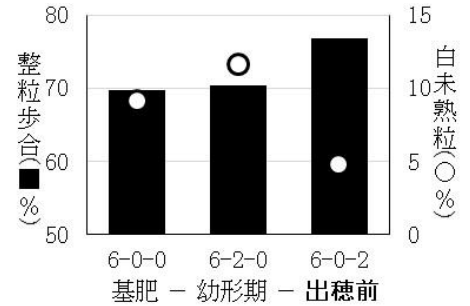


図7 追肥時期と品質

- ①《基肥+追肥体系》+【窒素成分1kg/10a程度、※出穂3日前に判断】
- ②《基肥一発肥料》+【窒素成分1kg/10a程度、※出穂10日前に判断】

### (2) 出穂後の飽水管理

- ・出穂期頃は浅水による湛水管理として、その後は間断かん水を基本とします。
- ・しかし、出穂期以降が高温の場合は、飽水管理を行うと水田の地温を下げて白未熟粒を減らす事ができます(図8)。
- ・このため、出穂後に令和5年度のように平均気温が26℃以上となる場合は、**飽水管理(常に足跡や溝切跡に水が溜まっている状態、ひたひた水)で稲体温度の上昇を抑えて品質の低下を防ぎましょう。**
- ・なお、落水時期は出穂後30日を目安とするが、その後も高温が続く場合は、ほ場の条件等を考慮して収穫7~10日前まで走り水を行いましょう。

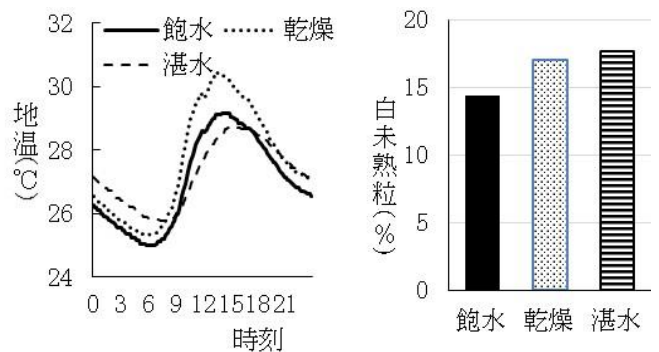


図8 出穂後の水管理による地温と品質

## 6 病虫害防除

### (1) いもち病

- 気温20~25℃、日照不足、葉の濡れが長時間続き、稲体の窒素含有量が多いときに発生しやすくなります。

伊達普及所管内では6月下旬に感染好適日が出現し、7/12、18に『葉いもち』を確認しました。

- 穂いもち対策で散布剤を使用する場合は、穂ばらみ末期と穂揃期の2回を基本に散布、

多発生が予想される場合は傾穂期にも追加で散布します。

○穂いもちの場合(薬剤例)

農薬名	使用量 (/10a)	使用時期 (防除適期)	使用回数	備考
コラトップ1 キロ粒剤12	1～1.5kg	出穂30日前まで(出穂15～10日前)	2	湛水散布
フジワン粒剤	3～5kg	出穂30～10日前まで 但し収穫30日前まで(出穂30～10日前)	2	湛水散布
ビーム粉剤DL	3～4kg	収穫7日前まで(穂ばらみ末期と穂揃期)	3	
ラブサイド粉剤DL	3～4kg	収穫7日前まで(穂ばらみ末期と穂揃期)	3	
ノンブラス粉剤DL	3～4kg	収穫7日前まで(穂ばらみ末期と穂揃期)	2	
ブラシン粉剤DL	3～4kg	収穫7日前まで(穂ばらみ末期と穂揃期)	2	

(2) 紋枯病

○多肥、幼形期以降の高温(平均気温22～23℃以上)・多湿で発生が助長されます。

○前年度、被害株に形成された菌核が一次感染源になるため、前年度発生が多かったほ場では必ず防除してください。また、過剰な窒素施用は避けましょう。

○紋枯病の場合(薬剤例)

農薬名	使用量 (/10a) (散布液量)	使用時期 (防除適期)	使用回数	備考
バリダシン液剤5	1,000倍 (60～150L)	収穫14日前まで(穂ばらみ～穂揃期)	5	
モンカットファイン粉剤20DL	3～4kg	収穫14日前まで(穂ばらみ～穂揃期)	4	

(3) カメムシ類

<b>病害虫発生予察情報 注意報 第2号</b>	
対象作物：水稻	発生時期：やや早い
病害虫：斑点米カメムシ類	発生量：多い
対象地域：県内全域	

○水田周辺の草刈りをこまめに実施し、生息場所をつくらないようにします。また、出穂の10日前頃まで地域一斉に草刈りを終了しましょう。

○出穂の早い雑草(ノビエ、ホタルイ)に集まるため、水田内に残草している場合は、早めに処理しましょう。

○散布剤の防除は、乳熟期を基本とし、発生状況により7日おきに追加防除をおこない、特に、天のつぶなど割粃が発生しやすい品種では、出穂20日後頃に追加散布をおこないましょう。

○カメムシ類の場合(薬剤例)

農薬名	使用量 (/10a)	使用時期 (防除適期)	使用 回数	備考
スミチオン粉 剤3DL	3～4kg	収穫21日前まで(出穂期以降(乳熟期))	2	出穂前は1回
キラップ粉剤 DL	3～4kg	収穫14日前まで(出穂期以降(乳熟期))	2	
アルバリン粉 剤DL	3kg	収穫7日前まで(出穂期以降(乳熟期))	3	
スタークル粉 剤DL	3kg	収穫7日前まで(出穂期以降(乳熟期))	3	
ダントツ粉剤 DL	3～4kg	収穫7日前まで(出穂期以降(乳熟期))	3	
キラップ粒剤	3kg	収穫14日前まで(出穂期以降(穂揃期～乳熟期))	2	湛水散布
アルバリン粒 剤	3kg	収穫7日前まで(出穂期以降(穂揃期～乳熟期))	3	湛水散布
スタークル粒 剤	3kg	収穫7日前まで(出穂期以降(穂揃期～乳熟期))	3	湛水散布
ダントツ粒剤	3～4kg	収穫7日前まで(出穂期以降(穂揃期～乳熟期))	3	湛水散布

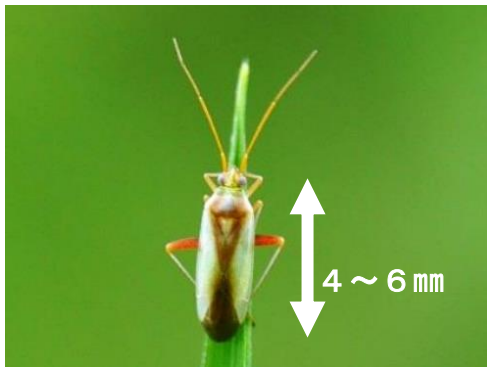


写真1 アカスジカスミカメ

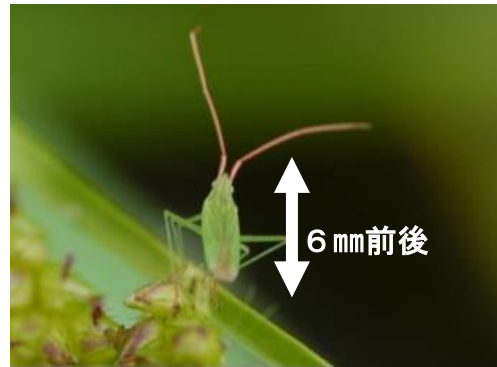


写真2 アカヒゲホソミドリカスミカメ

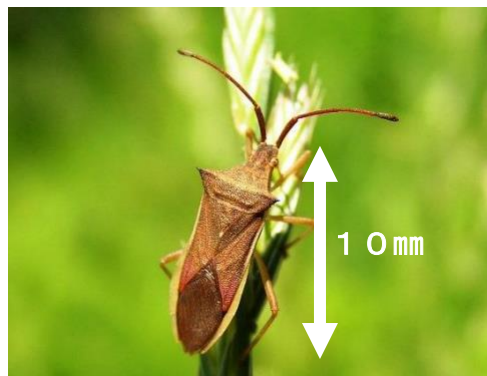


写真3 ホソハリカメムシ



写真4 クモヘリカメムシ

- ★ 令和6年7月10日現在の農薬登録内容に基づき作成しています。
- ★ 農薬は使用前に必ず農薬のラベルを見て農薬の使用基準を確認しましょう！
- ★ 周囲にミツバチの巣箱が設置されている場合、養蜂業者に連絡しましょう！
- ★ 防除を行った際には、忘れずに防除日誌へ記帳をしましょう！
- ★ 無理のない作業、余裕を持った慎重作業で、農作業事故を防止しましょう！
- ★ これから暑い日が増えます。こまめな水分補給と休憩で熱中症を予防しましょう！
- ★ 「地域計画の策定」を推進しています。